闘い続ける球児たち

只見高校１年生（※発表当時）
山内（やまうち） 友斗（ゆうと）

私たちは、今、ウイルスと常に戦っています。全国の野球部はもちろん、只見高校野球部にも試練が与えられました。最大の目標であった甲子園は中止になり、自分たちの実力を試す交流試合でさえもできなくなってしまいました。野球部の一員としてやっと練習ができるとやる気で満ちている時に、そうした状況になってしまい、とてもショックでした。

しかし、それ以上につらかったのは、３年生の先輩方だと思います。ここで、３年生の先輩を代表して主将を務めていた山口裕太さんからメッセージを頂きました。代読します。

「昨年は、コロナウイルスの影響でなかなかチームがまとまらず、思うような練習が出来ませんでした。そんな中でもチームを信じていた結果、一人一人がしっかりと自主練習をしていました。最後は、思うような結果が出せなかったけれど、みんなの成長というものは感じられました。コロナウイルスの影響で全国の大会がなくなり、辛い思いをしている人がたくさんいて心が痛かったです。早くコロナウイルスがなくなって欲しいと心から思っています。私たちにできることは、スポーツを通じてたくさんの方々に元気と勇気を与えることだと日々思いながら部活動に励んでいました」

先輩方は、私たち1年生が入部してから、熱心な姿、手本となる姿を常に見せてくれていました。技術もまだまだな私たちに、優しく、時には厳しく教えてくださいました。なぜこんな目に遭ってしまったのかと、悔やんでも悔やみきれません。

また、高校の探究活動でお世話になっている新國真也さんからもメッセージを頂きました。

「コロナウイルスによる大きな影響は特にありませんでしたが、野外作業なので、保育所、小学校、高校などの学校行事や練習の賑わいが例年より少なく、寂しい年でした。いかに地域に元気な子供たちの声が響き渡るかで、我々の頑張り度も上がる事を実感しました」

私は、先ほどのようにスポーツは地域の方々に元気と勇気を与えられるのだと確信でき、嬉しく思いました。さらに頑張ろうという気持ちでいっぱいになりました。

国や町はさまざまな対策をしています。マスクの着用、三密回避に留まらず最近では、再び緊急事態宣言が発令されました。県内でも学校行事一時停止の通知がありました。不安なことばかりではありません。手洗い、うがいやマスク着用、消毒の徹底など、どんな小さなことでも、一人ひとりが徹底すれば、それは大きな力になります。

これらのことからコロナウイルスによって大きな影響を受け、それに負けないように戦い続ける人々や拡大を防ぐように意識する人々が一人でも多くなり、私も今まで以上に気をつけ、この只見町がずっと豊かになっていくためみなさんで協力し合っていきましょう。

はらぺこ保育

只見高校２年生（※発表当時）
沼田（ぬまた） 彩希（さき）

私の夢は、保育士になることです。保育士に憧れ始めたのは、小学2年生の頃でした。当時、ピアノを習っていたのですが、音楽に触れている時間が好きでした。家族の前で演奏した時、楽しそうに聴いてくれる姿を見て嬉しかったことを今でも覚えています。また、私は絵を描くことも好きでした。二つの好きなことを活かせる職業に就きたいと思ったのです。母が保育士だったこともあり、小さい私の中では保育士になることが自然と目標になっていました。高校2年生になった今は、特にハンディキャップを持った子供たちの保育ができるような保育士になりたいと考えるようになりました。

しかし、私は保育の現状や課題についてよく知らないことに気がつきました。「善は急げ」と思い立ち、私はウェブサイトを利用して詳しく調べてみることにしました。

この場を借りて現状と課題を2つご紹介します。突然ですが、皆さんは昨年度生まれた赤ちゃんの人数をご存知ですか。正解は86万5、２３４人です。これは１８９９年の統計開始以降、過去最低の人数だといいます。第2次ベビーブームが起こった１９７３年の２０９万1、９８３人から、なんと１２０万人以上も減っているのです。少子化の背景の1つとしては、未婚化や晩婚化が挙げられます。社会の価値観の変化の影響が大きいのではないかと考えました。以前は、結婚して子供を育てることが社会人としての大切な要素でしたが、今はそれも選択肢の1つとして捉えられるようになってきました。私はこの変化が悪いものであったとは思えません。女性の社会進出や将来の選択肢が広がる重要な柱の1つになったと考えるからです。

未婚化や晩婚化が良い変化だとすると、少子化を引き起こす他の原因は何なのでしょうか。私は、ずばりお金だと考えました。内閣府のウェブサイトには、「20代や30代の若い世代が子供を持たない最大の理由が、子育て教育にお金がかかりすぎるから」という主旨の記載がありました。私は、自由な時間の確保や仕事を続けたいといった心理的な理由の方が多いと思っていたので驚きました。実際に対策も講じられています。3年前の10月から「幼児教育・保育の無償化」が実施されているのです。無償化になったことで金銭面の問題は良い方向に向かっていくのではないかと思います。

第2に、保育士の減少による待機児童数の増加です。いくら他の問題が解決されても、保育士や保育園の数が減少すれば、子供が保育園や保育所に入ることはできません。これでは仕事と育児の両立も不可能です。そもそも、保育士の減少の背景には待遇問題があります。例えば給与と業務量が見合っていなかったり、希望の時間に勤務することが難しいという問題が挙げられます。しかし、このままでは保育士も仕事と育児の両立が難しくなり、離職する方も増えてしまいます。つまり保育士の待遇改善が実現することが少子化を止める大きな一歩なのです。

最後になりますが、「無知の知」という言葉があります。今回、保育の現状や課題について調べることによって、自分の思い描いていた「保育士」という職業は輝かしい面だけではないことを知りました。それでも私は夢を諦めることはできません。「はらぺこ保育」というタイトルにもあったように、今の保育には誰しも「何か足りない」と感じるような点が多くあります。その何かを今回の主張大会を通じて、少し掴むことができたように思います。この少しの知識を得られたことが、自分の夢を叶えるための大きな一歩になりました。これからは専門的な知識が身に付く大学に進学し、内側から保育に関わっていけるように励んでいきたいです。

わたしの目標
～生徒のために～

只見高校２年生（※発表当時）
小菅（こすげ） 岳人（たけと）

あまりにも唐突かもしれませんが、私たち高校生にとって、学校生活とトイレとは切り離せないものなのです。この場をお借りしてお話しさせてください。

まず、排便をしたい時、私たちはどこに向かうでしょうか。トイレです。そして、出来れば快便をしたいと思っているはずです。しかし、そのトイレが汚い、臭い、まして排便しにくい造りになっていたらどうでしょうか。快便出来るでしょうか。できません。

私がここまで排便にこだわる理由は、それが健康であるかのものさしになるからです。例えば、便秘は腹痛や食欲低下を招き、栄養の吸収を妨げ、さまざまな機能に影響を及ぼします。心筋梗塞や脳卒中、寝たきりなどのリスクを高め、寿命も縮めてしまうことが明らかになっています。安心して排便できる環境を作ることが、私たちの健康を保つ要素になるのです。「病は気から」とも言いますが、心の健康は腸から、腸の健康は心からだと思います。

私たちは、健康でいるからこそ毎日前向きに登校ができ、様々な授業を受けることが出来るのです。

では、一体どのようにして私たちの健康を保てる環境を整えられるでしょうか。まず、トイレを直さなければいけません。具体的には、洋式トイレを増やすべきだと考えます。文部科学省の調べによると、公立高校の洋式化率は43・1パーセントでした。そして、只見高校では約16パーセントだと分かりました。つまり、自宅では洋式トイレ、学校では和式トイレといったギャップを改善する必要があると言えます。洋式を増やすことによって、トイレに行きやすくなります。

しかし、ここで全てのトイレを洋式にするのは良くありません。実際には、和式トイレのメリットもあります。例えば、排便の時間が短い、排泄物を目視でき、自身の健康状態を把握しやすい、そして、直接便器に触れないなどが挙げられます。

私は、トイレが皆さんの健康に関わる極めて重要なものだと伝えたいのです。この主張で実現できるかどうかは分かりませんが、強い思いのもと、お時間をいただきました。皆さんはどのような考えをお持ちでしょうか。ご清聴ありがとうございました。

３ヵ月にわたり、青少年主張大会の原稿を掲載いたしました。

２月号では、町内３小学校６年生がクラスメイトとの成長や只見町の守りたいものや将来の夢について伝えてくれました。

３月号では、日本のＳＤＧｓの最先端を行く只見中学校の生徒が海洋教育を通して学んだことを基に自分達でもできることややらなければならないことについて主張しました。

最終回の今月は只見高校生３人の主張をお伝えしました。

日ごろの生活から感じたことや勉強で学んだことなど等身大のテーマで発表してくれた９人に心を揺さぶられた方も少なくないのではないでしょうか。

発表してくれた９人は、ぜひこれからも熱い気持ちを胸に持ち続けてください。